

第19回

十勝川中流部川づくり報告会

令和4年3月5日（土）
十勝川中流部市民協働会議

令和3年度 活動報告

令和4年3月5日（土）
十勝川中流部市民協働会議

令和3年度の活動報告

1. 活動報告

- ① 相生中島上流湿地
- ② 光南水辺の楽校
- ③ ウツベツ川
- ④ その他活動
- ⑤ SDGs
- ⑥ グリーンインフラ大賞

2. 高校連携：各高校から発表

3. 十勝川かわまちづくり：事務局 小川

①相生中島上流湿地 活動3回

| No | 場所 | 日付 | 内容 |
|----|----------|--------------|-----------------|
| 1 | 相生中島上流湿地 | R3. 4. 22～ | 自動撮影カメラの設置 |
| 2 | | R3. 5. 20-22 | 再樹林化防止のための土砂掘削他 |
| 3 | | R3. 6. 19 | 水生動物調査 |

相生中島上流湿地へ自動撮影カメラの設置

| | |
|------|---|
| 撮影期間 | 令和3年4月22日 ~ 11月18日 |
| 場 所 | 相生中島上流湿地 |
| 目 的 | <p>昨年度から実施しているSDGsへの貢献に向けた活動として、採集が可能な生物と比べ、確認が困難である鳥類の生息状況確認のため、自動撮影カメラ全5台を4月22日に設置し、主に水鳥類のモニタリングを行いました。</p> <p>約7か月間の設置で、鳥類では新確認種2種を含めた6科9種、哺乳類では新確認種1種を含めた2科3種を確認しました。</p> |
| 新確認種 | 鳥 類：バン（クイナ科）・キンクロハジロ（カモ科） 哺乳類：エゾタヌキ（イヌ科） |

※ この活動は北海道e-水プロジェクトの助成を受けています。



自動撮影カメラによる生物確認状況（鳥類：6科9種, 哺乳類2科3種）

赤字：新確認種

| 分類 | 科名 | 種名 | 撮影箇所 | | | | |
|-----|-------|---------|------|------|-------|-------|-------|
| | | | 川側下流 | 川側中間 | 築堤側上流 | 築堤側中間 | 築堤側下流 |
| 鳥類 | カモ | マガモ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | | カルガモ | ○ | | | | ○ |
| | | キンクロハジロ | | | ○ | | |
| | カイツブリ | カイツブリ | ○ | | | | |
| | サギ | アオサギ | ○ | | ○ | | |
| | | ダイサギ | ○ | | | | |
| | ツル | タンチョウ | | ○ | | | |
| | クイナ | バン | ○ | | | | |
| | カワセミ | カワセミ | | | ○ | | |
| 哺乳類 | シカ | エゾシカ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | キタキツネ | | | | ○ | |
| | イヌ | エゾタヌキ | | | | ○ | |

鳥類確認種数

R2年確認種数 → R3年確認種数

43種 → 45種

哺乳類確認種数

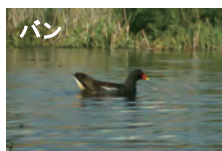
H30年確認種数 → R3年確認種数

10種 → 11種

鳥類 新確認種



確認日：5月10, 11日



確認日：6月5, 6, 7, 9日
8月19, 28, 29日
10月2日

哺乳類 新確認種



確認日：8月21日

十勝川相生中島上流湿地における再樹林化防止のための土砂掘削他

| | |
|----|--|
| 日時 | 令和3年5月20日(木)～ 5月22日(土) |
| 場所 | 十勝川相生中島上流湿地 |
| 目的 | 相生中島上流湿地は、十勝川の流下断面確保と再樹林化防止を目的に、平成24～25年度に掘削されたことにより形成されました。 平成28年8月の台風によって湿地の大半が土砂に覆われ、水域も半分程度に減少しました。この活動は、半減した水域環境拡大と湿地環境維持を目的に行われ、今回で5回目となります。 |
| 内容 | <ol style="list-style-type: none">1. ガマ生育面積拡大のための水際掘削<ul style="list-style-type: none">• 湿地下流部のガマ生育地付近の水際を水深が30～50cm程度になるよう掘削(約600㎡)2. ヤナギ実生及び幼木の覆土処理<ul style="list-style-type: none">• ガマ生育面積拡大の作業により発生した土砂によるヤナギ実生への覆土(約600㎡)• 中州に生育するヤナギ幼木への覆土(約2,700㎡)3. 外周路の整備<ul style="list-style-type: none">• 増水時に水没してしまう箇所への覆土 |



作業状況(5月20日～22日の作業)



ガマ生育面積拡大のための掘削



ヤナギ実生への覆土処理



ヤナギ幼木への覆土処理



ガマ生育範囲拡大のための掘削後



ヤナギ実生への覆土処理後



ヤナギ幼木への覆土処理

十勝川相生中島上流湿地における水生動物調査

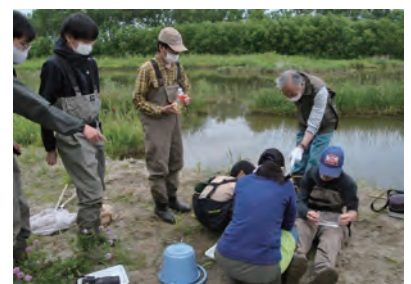
| | |
|----|---|
| 日時 | 令和3年6月19日(土) |
| 場所 | 十勝川相生中島上流湿地 |
| 目的 | <p>昨年から実施しているSDGsへの貢献に向けた活動の一つである「湿地環境の創出により増加した生物種数を維持する」という目標に対して、相生中島上流湿地に生息する水生動物の採取による調査を行いました。</p> <p>結果としては、8科8種の底生動物を確認し、キハダヒラタカゲロウ属の一種を新たに確認しました。またトンボを4科10種、魚類を3科5種確認しています。</p> <p>また、昨年からヤナギ再樹林化抑制に向けたクサヨシ播種試験を行っている箇所について、試験区内のヤナギ除去作業も行いました。</p> |
| 内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 湿地内に生息している水生動物調査 2. クサヨシ播種試験区内のヤナギ除去 |



調査時の湿地の様子



調査の様子



同定の様子

水生動物調査結果

底生動物

| 科名 | 種名 | 備考 |
|---------|----------------|------------------|
| ヒラタカゲロウ | キハダヒラタカゲロウ属の一種 | 新確認種 |
| ミズムシ | ミズムシ | |
| コオイムシ | オオコオイムシ | 北海道RL【希少種(R)】 |
| タイコウチ | ミズカマキリ | |
| マツモムシ | マツモムシ | |
| ゲンゴロウ | ゲンゴロウモドキ | |
| ミズスマシ | オオミズスマシ | 環境省RL【準絶滅危惧(NT)】 |
| モノアラガイ | モノアラガイ | 環境省RL【準絶滅危惧(NT)】 |



水生生物全個体

トンボ

| 科名 | 種名 |
|---------|----------------|
| アオイトトンボ | オツネイトンボ |
| イトトンボ | キタイトトンボ (ヤゴ) |
| | エゾイトトンボ |
| | ルリイトトンボ (ヤゴ) |
| ヤンマ | オオルリボシヤンマ (ヤゴ) |
| トンボ | シオカラトンボ |
| | キトンボ (ヤゴ) |
| | アユタテアカネ (ヤゴ) |
| | アキアカネ (ヤゴ) |
| | ノシメトンボ (ヤゴ) |



新確認種 キハダヒラタカゲロウ属の一種

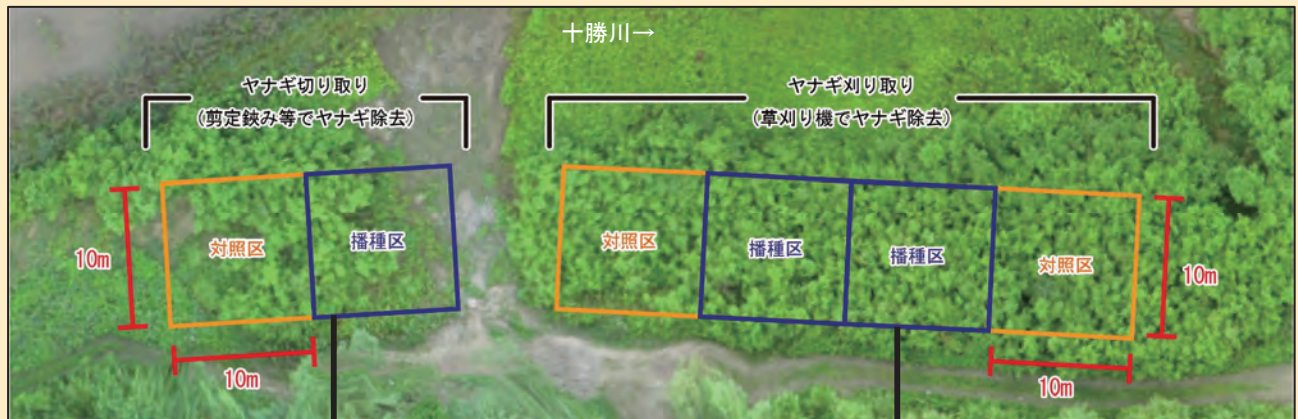
魚類

| 科名 | 種名 | 備考 |
|------|-----------|--|
| ドジョウ | フクドジョウ | |
| | エゾホトケドジョウ | 環境省RL【絶滅危惧IB類(EN)】 北海道RL【絶滅危惧IB類(En)】 |
| トゲウオ | イトヨ属の一種 | |
| | トミヨ属の一種 | |
| ハゼ | ジュズカケハゼ | 環境省RL【準絶滅危惧(NT)】 |



魚類水生生物全個体

クサヨシ播種試験区のヤナギ除去前後



②光南水辺の楽校 活動2回

| No | 場所 | 日付 | 内容 |
|----|---------|-----------|------------------------|
| 1 | 光南水辺の楽校 | R3. 6. 10 | 実のなる木周辺の除草作業 |
| 2 | | R3. 10. 7 | 川で遊ぼう 札内川・光南地区水辺の楽校 |

光南地区 水辺の楽校「実のなる木」周辺の除草

日時 令和3年6月10日（木）9：00～12：00

内容 光南地区 水辺の楽校「実のなる木」の植樹は、平成29年度～令和2年度に植樹会を行い、その後あじさい保育園の園児や地域の方々の散策の場として利用していただいています。この活動は、水辺の楽校が健全に活用されることを願い、散策ルートと植樹した木々の周りの除草を行ったものです。



川で遊ぼう 札内川・光南地区水辺の楽校

| | |
|--------|--|
| 日時 | 令和3年10月7日（木）9：00～12：00 |
| 場所 | 光南水辺の楽校（札内川） |
| 参加者 | ・あじさい保育園：園児50名、大人6名 ・運営人員（計25名） 帯広河川事務所5名 十勝川河川協力団体連合10名 札内川懇談会1名 |
| イベント内容 | 水生動物等の観察会 |
| 主催 | あじさい保育園、NPO法人十勝多自然ネット、十勝川中流部市民協働会議、帯広開発建設部 帯広河川事務所 |
| 協力 | 札内川懇談会 |



帯広河川事務所 川岸計画課長より
開会の挨拶



水生動物を捕獲している様子



捕獲の仕方について見学している様子

水生動物等の観察会

札内川で捕獲していた水生動物を水槽に入れて準備しておき、札内川懇談会メンバーの石垣氏から参加者に水生動物について説明をしていただきました。



札内川懇談会メンバーの石垣氏より説明



観察の様子



観察の様子



観察の様子

③ウツベツ川 活動1回

| No | 場所 | 日付 | 内容 |
|----|-------------------|-----------|------------|
| 1 | ウツベツ川 (親水護岸周辺) | R3. 6. 26 | 野草移植及び水質調査 |

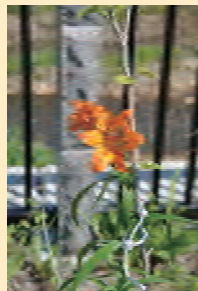
ウツベツ川 野草移植及び水質調査

| | |
|-----|--|
| 日時 | 令和3年6月26日 (土) |
| 場所 | ウツベツ川 (厚生病院前の親水護岸周辺) |
| 目的 | 平成30年度に改修工事が行われ、令和元年度にステップ整備、令和2年度にフェンス沿いへの実のなる木の植樹等を行いました。令和3年度は、植樹樹木周囲に在来種野草であるエゾスカシユリ、アヤメ等を移植しました。併せて、全国一斉水質調査にも参加し、ウツベツ川の水質をパックテストを使用し調べました。 |
| 内容 | 1. 植樹樹木周囲に野草移植 2. 全国一斉水質調査への参加 |
| 参加者 | 十勝川中流部市民協働会議：6名 |

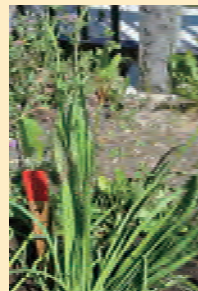
1. 植樹樹木周囲に野草移植



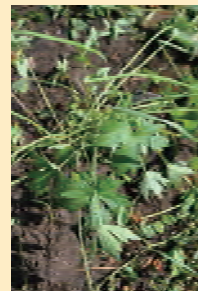
野草移植の様子



エゾスカシユリ



アヤメ



ミヤマキンポウゲ



クサレダマ

2. 全国一斉水質調査への参加

水質試験結果（実施日：6月26日）

| 項目 類型 | 利用目的の適応性 | 基準値 | 試験結果：親水護岸前 | |
|----------|-------------------------------------|-------------------|--------------|--------------|
| | | 化学的酸素要求量 (COD) | R2 | R3 |
| AA | ・水道1級 ・水産1級 ・自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの | 1mg/ℓ以下 | ○ (1mg/ℓ) | ○ (1mg/ℓ) |
| A | ・水道2、3級 ・水産2級 ・水浴及びB以下の欄に掲げるもの | 3mg/ℓ以下 | | |
| B | ・水産3級 ・工業用水1級 ・農業用水及びCの欄に掲げるもの | 5mg/ℓ以下 | | |
| C | ・工業用水2級 ・環境保全 | 8mg/ℓ以下 | | |

結果は、1mg/ℓとなり、類型AAとなった。

※ 上記の表は湖沼の環境基準の数値によるもの



採水箇所上流側の様子



採水箇所の様子



パケットテストの様子

⑥ その他 活動4回

| No | 場所 | 日付 | 内容 |
|----|-----------------|-------------|---------------------------|
| 1 | 岐阜県 長良川国際会議場 | R3. 10. 2-3 | 第13回 いい川・いい川づくりワークショップ |
| 2 | 音更川合流点下流 | R3. 10. 26 | 論点箇所2の現地見学 |
| 3 | 東京都 日本科学未来館 | R3. 11. 16 | 日本水大賞 活動成果報告会 |
| 4 | 音更川合流点下流 | R3. 12. 20 | 論点箇所2のクサヨシ播種 |

第13回 いい川・いい川づくりワークショップ in 中部

| | |
|-------|--|
| 日時 | 令和3年10月2日（土）13：00～20：00、 10月3日（日）8：30～15：00 |
| 場所 | 岐阜県 長良川国際会議場 |
| 内容 | <p>7月7日の川の日記念行事として始まり、今回で通算23回目となります。全国のいい川づくりを行っている個人や団体が日頃の活動を発表して、“より良いいい川づくり”について全国規模で共有できる場となります。</p> <p>去年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催は2021年に延期となりました。延期となった代わりに、オンライン企画として「ゆく川・くる川川談義」が開催され、当会も参加しました。</p> <p>今年は、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行った上で予定通り開催され、十勝からは2団体が参加しました。</p> |
| 10月2日 | 開会式 → 全体発表（現地・オンライン） → グループワーク → グループワークの全体共有 |
| 10月3日 | 全国の川からの中継 → パネルトーク木曾三川 → 川開きだヨ！全員集合 → 閉会式 |



開会式の様子



発表前の全体集会

全体発表・グループワーク

十勝川中流部
市民協働会議
大澤 亘紘 氏



全体発表の様子



グループワークの様子

本別アイヌ協会
小川 哲也 氏

協力：十勝川中流部
市民協働会議



全体発表の様子

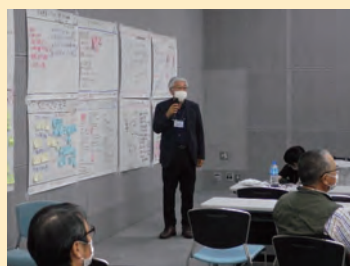


グループワークの様子

事務局として参加
和田 哲也 氏



グループワーク進行の様子



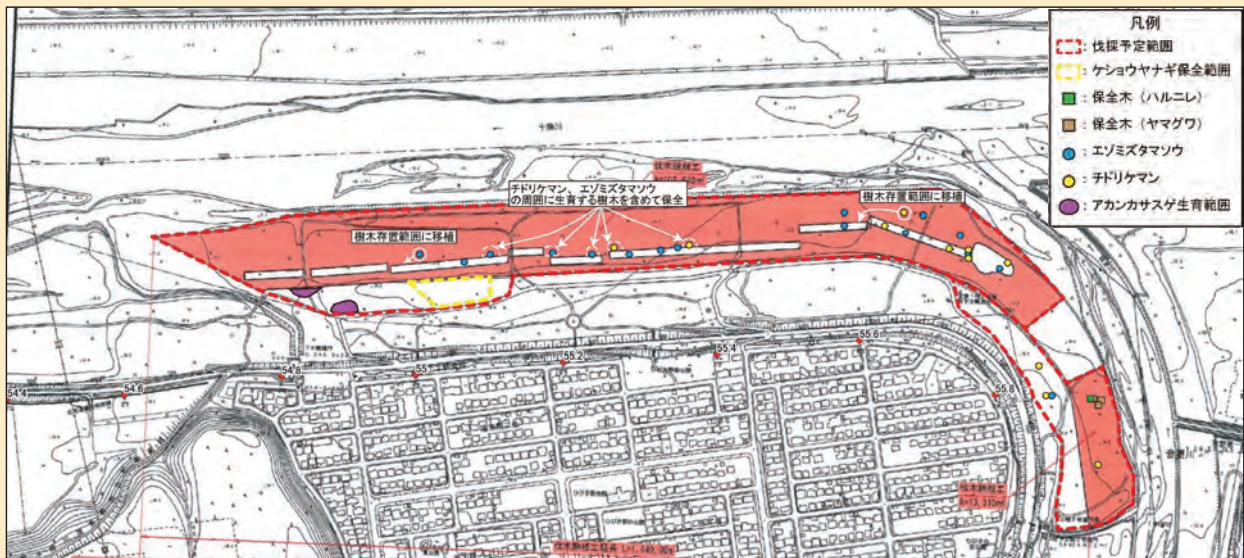
グループワーク全体共有の様子



論点箇所2の現地見学

| | |
|-----|--|
| 日時 | 令和3年10月26日（火） |
| 場所 | 音更川合流点下流（論点箇所2） |
| 内容 | <p>川づくり（案）として出た9つの論点箇所に含まれている、論点箇所2の音更川合流点下流地区の現地見学を行いました。平成25年に高校生が作成したデザイン案を基に縦断方向に幅10m程度の樹林存置区画を残す場所を決めていましたが、平成28年の出水により、予定していた存置区画の環境が大きく変わったため、昨年度に広葉樹が多く生育している箇所に存置区画の移動を行いました。</p> <p>今年度は音更川合流点下流の樹木伐採を行うため、帯広河川事務所と伐採範囲の確認を行い、その後、施工範囲内にある貴重種（エゾミズタマソウ、チドリケマン）を存置区画に移植しました。存置区画付近に生育している貴重種については、生育位置周辺の樹林を一部残すことで保全するということとなりました。</p> |
| 参加者 | <p>帯広開発建設部 帯広河川事務所：3名 十勝川中流部市民協働会議：8名 株式会社 伊豆倉組：5名（工事受注者）</p> |

音更川合流点下流の伐採箇所の現地見学（論点箇所2）



現地見学



貴重種 移植



貴重種を中心に周辺を囲い保全

第23回 日本水大賞 活動成果報告会

| | |
|----|--|
| 日時 | 令和3年11月16日（火）13：00～14：00 |
| 場所 | 東京都 日本科学未来館 |
| 内容 | <p>第23回日本水大賞の環境大臣賞受賞が4月に発表されましたが、コロナ過により6月の授賞式が延期となり、11月に東京都 日本科学未来館で行われました。</p> <p>当事務局から代表として和田が出席し活動について発表しました。</p> <p>水大賞委員長 毛利 衛 氏の挨拶から始まり、7分ほどの発表の後に日本国際湿地保全連合の名執芳博会長による講評が行われました。</p> <p>またこの様子はライブ配信され、現在も以下のURLから動画が見ることができます。</p> <p>https://www.youtube.com/watch?v=tFeQFrNpxDw</p> |



発表の様子



講評の様子

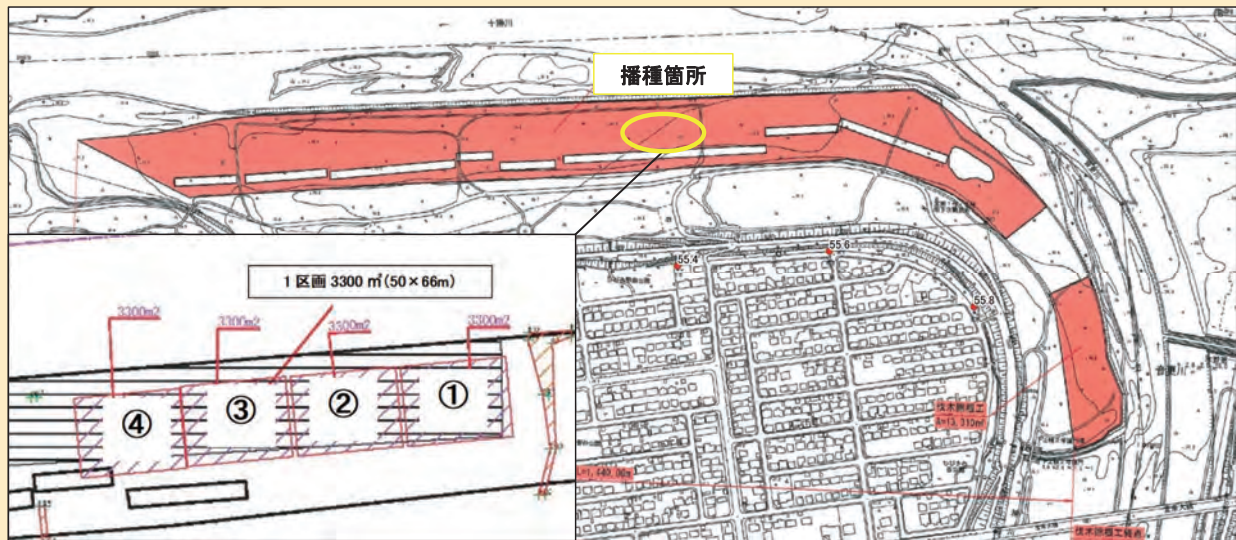
日本水大賞 環境大臣賞



論点箇所2のクサヨシ播種立会

| | |
|---------|---|
| 日 時 | 令和3年12月20日（月） |
| 場 所 | 音更川合流点下流（論点箇所2） |
| 内 容 | 論点箇所2の音更川合流点下流地区の樹林存置区画10mと貴重種（エゾミズタマソウ、チドリケマン）を保全しながら11月～12月に伐開工事が行われました。今回は、工事後の裸地となった箇所を対象に、クサヨシの播種量及びピートモスの量は変えずに化学肥料の量を区画ごとに換え、クサヨシの生育に違いが出るのか把握するため、試験的に播種を行いました。 |
| 播 種 詳 細 | <p>○総播種面積：13,200㎡（4区画）</p> <p>○1区画：50m×66m→3,300㎡</p> <p>区画1：クサヨシ1.023kg(0.31g/1㎡) + ピートモス924L(28L/100㎡)</p> <p>区画2：クサヨシ1.023kg + ピートモス924L + 化学肥料33kg(1kg/100㎡)</p> <p>区画3：クサヨシ1.023kg + ピートモス924L + 化学肥料83kg(2.5kg/100㎡)</p> <p>区画4：クサヨシ1.023kg + ピートモス924L + 化学肥料165kg(5kg/100㎡)</p> |
| 参加者 | 十勝川中流部市民協働会議：3名 株式会社 伊豆倉組：5名（工事受注者） |

音更川合流点下流伐採箇所のクサヨシ播種位置図



播種の様子



播種後の様子



播種したクサヨシの種子

SDGsの取り組み

2021年度の成果

湿地環境維持管理の継続でSDGsへの貢献

具体的な数値目標とロードマップによる現状と方向の把握

十勝川中流部市民協働会議

湿地環境の維持管理を行う中で該当するSDGs目標



13 【気候変動に具体的な対策を】

行動：再樹林化を防止し、湿地、草原環境を維持することで、再繁茂するヤナギ林の伐採量を減らしその工事に伴う温室効果ガス（二酸化炭素量）を抑制する。

目標：2030年までに温室効果ガスを45%削減する。



15 【陸の豊かさも守ろう】

行動：ヤナギ単層林から多様なハビタットへの変化で創出した、生物多様性を維持する。

目標：湿地環境の創出により49%増加した生物種数を2030年まで維持する。



17 【パートナーシップで目標を達成しよう】

行動：川づくりにおけるアイヌ民族文化とのパートナーシップと民族文化伝承へ協力する。

目標：32.4m²/年のゴザ※1原材料のGamma※2を提供し続ける。

※1 アイヌ語で「キナ」や「チタラペ」（大きさや文様の有無、用途や材料、地方によって呼び方が異なる）

※2 アイヌ語で「シキナ」

2021年度の成果 13【気候変動に具体的な対策を】

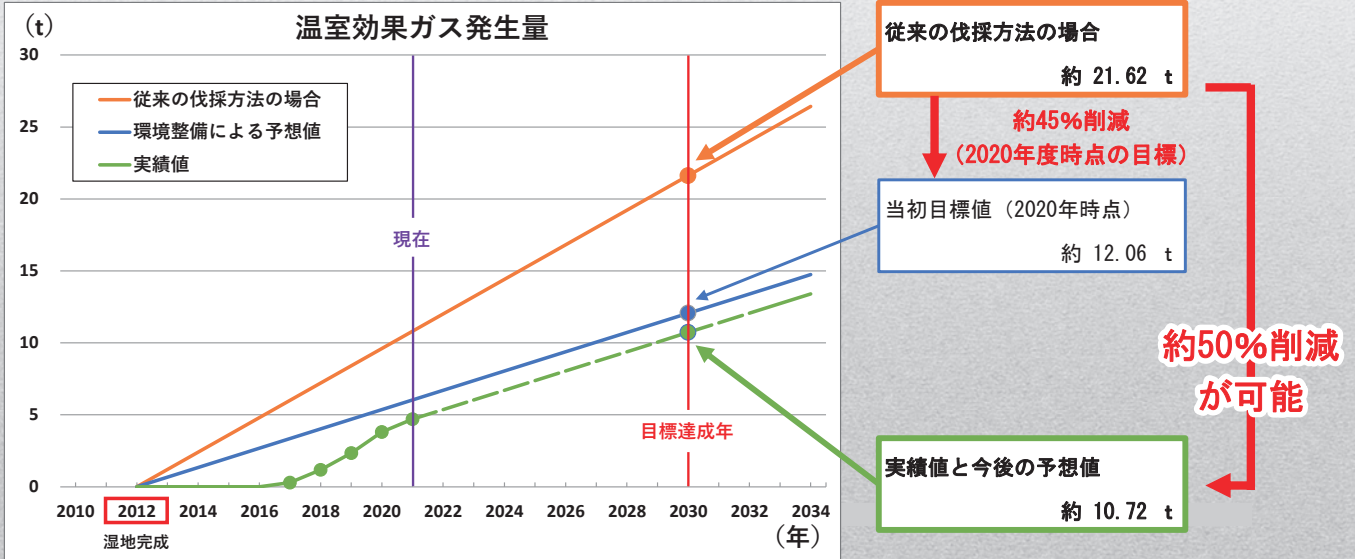
目標(2020年に計画)：2030年までに温室効果ガスを45%削減する

2021年度の成果

昨年と同様に、当初目標の約45%削減を上回る約50%の削減ができるという結果となった。

稼働時間と軽油使用量から算出した温室効果ガス排出量 →

| 年度 | 重機稼働時間 (h) | 軽油使用量 (ℓ) | 温室効果ガス排出量 (t) |
|------|------------|-----------|---------------|
| 2017 | 7 | 112 | 0.293 |
| 2018 | 21 | 336 | 0.880 |
| 2019 | 28 | 448 | 1.173 |
| 2020 | 35 | 560 | 1.467 |
| 2021 | 21 | 336 | 0.880 |



2021年度の成果 15【陸の豊かさを守ろう】

目標(2020年に計画)：湿地環境の創出により49%増加した生物種数を2030年まで維持する

2021年度の成果

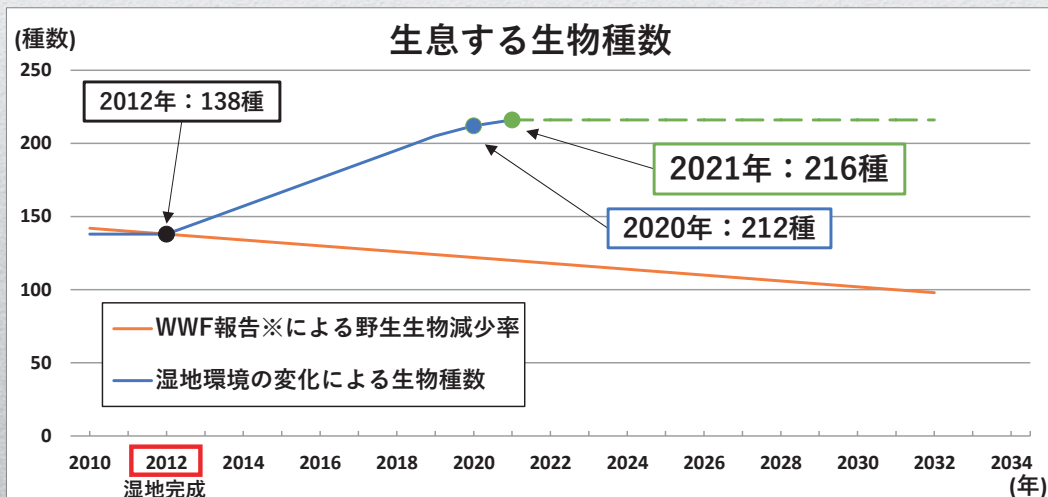
<水鳥類を対象とした自動撮影カメラによるモニタリング>

鳥類：6科9種を確認(新確認種 2種)、哺乳類：2科3種を確認(新確認種 1種)

<水生生物調査>

魚類調査：3科5種を確認、昆虫(トンボ類)：4科10種を確認、底生動物：8科8種を確認(新確認種 1種)

今年度の生物モニタリングで新たに4種確認し、生物種数は216種となり湿地造成時から57%の増加となった。



※ 世界自然保護基金によると、世界の野生生物の数は過去40年で58%減少しているという報告がある(1年間に1.45%減少)

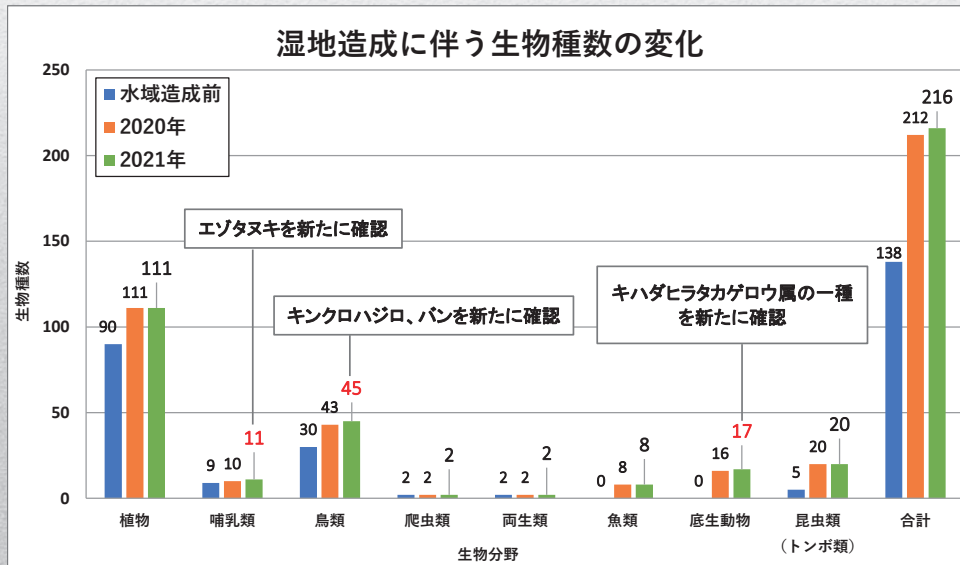
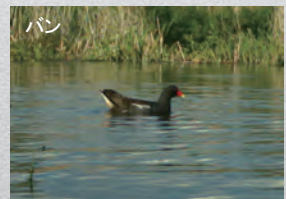
湿地造成前 138種 → 2021年度 216種 57%増加

2021年度の成果 15【陸の豊かさも守ろう】

目標(2020年に計画)：湿地環境の創出により49%増加した生物種数を2030年まで維持する

2021年度の成果

哺乳類では「エゾタヌキ」、鳥類では「キンクロハジロ」と「バン」、底生動物では「キハダヒラタカゲロウ属の一種」を新たに確認した。



2021年度の成果 17【パートナーシップで目標を達成しよう】

目標(2020年に計画)：32.4㎡/年のゴザ※1原材料のガマ※2を提供し続ける

※1 アイヌ語で「キナ」や「チタラベ」(大きさや文様の有無、用途や材料、地方によって呼び方が変わる) ※2 アイヌ語で「シキナ」

2021年度の成果

昨年度の時点で、継続的な提供を行うための面積1,523㎡を上回る1,673㎡を確保できていた。

今年度は、昨年度よりも生育面積が41%も拡大し、2,837㎡となり、目標の生育面積を維持することができている。



2020年度 1,673㎡ → 2021年度 2,837㎡ 41%増加



13【気候変動に具体的な対策を】

湿地環境を維持することによって集まるデータを基に、温室効果ガス削減と土壌炭素固定の精度を上げ、それぞれの知見を蓄積する。



15【陸の豊かさを守ろう】

氾濫原湿地の多様なハビタットを維持することで、湿生生物の生息環境を提供し続け、生物の多様性にも貢献していきたい。



17【パートナーシップで目標を達成しよう】

アイヌ民族とさらにパートナーシップを構築し、アイヌ民族から学んだ文化を共有することで川づくりの新しい方策を考える。

グリーンインフラ大賞

内容

グリーンインフラに関する優れた取組みの事例や技術・手法を幅広く募集し、情報発信することを目的とした「グリーンインフラ大賞」は、国土交通省が令和2年度から新たに創設した表彰制度です。

第2回となる今回のグリーンインフラ大賞に、当会は生態系保全部門に応募しており、現在、最終審査まで通過をしております。

最終審査に残った時点で優秀賞が決定していますが、当会を含む3団体の優秀賞の中からグリーンインフラ大賞（国土交通大臣賞）が選ばれます。

最終審査の結果発表は3月の下旬ごろの予定となっています。



応募した資料